

ちんじごかこくよこはまばなし

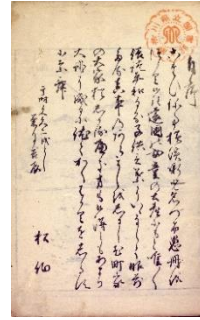

#45 珍事五ヶ国横浜はなし (横浜はなし)

作者：松伯（しょうはく 生没年不詳）

刊行：文久2年（1862）



[K291. 1/15]


 解題

■ 内容

本書は開港後4年で繁華街となり、発展し続ける横浜の異国情緒ある姿を、文中に自句を入れて紹介したものである。序文中には『珍事横浜噺』と別書名の表記がある。1冊42丁。図版9、半丁10行、1行27-29文字。

牛乳を飲む外国人の習慣、港崎の廓「岩亀楼」、商館、料理屋その他の様々な店、ビリヤード場の様子、異国船、教会、町役人などを紹介している。

立正大学熊谷図書館特別展の記録『『古地図・絵図 田中啓爾コレクションの世界』の記録』によれば、実際に外国人宅を取材するのは困難で、その頃既にある外国の新聞や雑誌などを参考に、多少大げさに文章が表現されていたこともあったという。

■ 作者

作者は俳人の南草庵松伯。自序の表記は松伯。南草庵は『神奈川県民政資料小鑑』による。石井光太郎は『横浜の俳人たち 横浜俳壇史 1江戸期』で、その素性は判明しないが強いて憶測すれば港崎町の名主代理、小野要輔

ではないかとしている。要輔は品川の人で、岩亀楼佐吉の横浜移住に従って来住した。朴格斎景山の門人で、俳号は弄花庵、和鴈とも号したという。本書の中に自句を入れていることから、松伯はハマの俳人1号ではないかとも石井光太郎は指摘している。

本文を読む

<翻刻>

『横浜開港側面史』横浜貿易新報社 1909 [K26.1/10]

※図版なし。表多数省略あり。本文一部省略有り。「編者曰く」との書き出しの解説が多数あり。

「珍事五ヶ国横浜はなし」（『神奈川県郷土資料集成』第2輯 神奈川県図書館協会 1958）[K08/1/2] ※巻頭図版5ページ省略。

『横浜開港側面史』横浜貿易新聞社編 歴史図書社 1979 [K26.1/10A]

※明治42年横浜貿易新報社刊の複製

参考文献

「横浜市 21 珍事五ヶ国横浜ばなし 1冊」（『神奈川県民政資料小鑑』神奈川県内務部編刊 1913 [K27/5]

「解説」（『神奈川県郷土資料集成』第2輯 神奈川県図書館協会 1958）
[K08/1/2]

『横浜の俳人たち 横浜俳壇史 1 江戸期』石井光太郎著 横浜市教育委員会 1972 [K93.1/56/1]

『横浜の本と文化』横浜市中央図書館 1994 [K02.1/36]

鈴木厚志ほか『『古地図・絵図 田中啓爾コレクションの世界』の記録』

（『地球環境研究』14号 立正大学地球環境科学部 2012）

※当館未所蔵 立正大学 HP>地球環境科学部>学部刊行物>地球環境研究で閲覧可能